

神原中シンボルトゥリー並木

トックリキワタ

科名 パンヤ科

学名 *Chosia Speciosa* St. Hill.

ブラジル中南部、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイが原産で、高さ二十メートルに達する落葉大高木。若木の樹皮は、帯濃緑で鋭い刺が密生する。成木は幹がとろろり状になる。枝は放射状になり、茎は長柄を有する掌状複葉で夏は緑で影を作る。花は濃いピンクで、内面基部は淡黄色。径十二く十五センチメートル。落葉後十月下旬から十二月上旬に咲く。本並木は十月頃が満開の時節である。実は広楕円形で十センチメートル位で、熟すると綿に包まれた多数の黒褐色の種子(二百個内外)がある。

この並木は、昭和四十九年に一年苗を植えた。成長して「インドキワタ」であることが判明し、昭和五十八年その木を台木として、教師たちでトックリキワタの枝(天野株)を接ぎ、成功した。以後「あびしい環境の中にも逞しく生き、美しい花を咲せる」本校のシンボルトゥリーとして、日々対話し、大切にしている。また、平成九年五月、市民に潤を与える花と緑の空間として、告示第三三三号により「那覇市都市景観資源」にも指定されている。

(天野鉄夫著「琉球列島有用樹木誌」より引用)

第三十七期卒業記念

平成十年三月設置

陶版製作 国場 一

揮毫 田場孝子